

2024 年 3 月 19 日

北海道医療的ケア児支援部会資料

北海道医療的ケア児等支援センター 作成

北海道医療的ケア児等支援センター主催

## 令和 5 年度 北海道医療的ケア児等コーディネーター養成研修

### 開催報告

#### 1. 開催目的

医療的ケア児等が抱える課題は多分野にわたり、必要なサービス也多岐にわたる。医療的ケア児等コーディネーターは、保健、医療、福祉、子育て、教育等の必要なサービスを総合的に調整し、医療的ケア児とその家族に対しサービスを紹介するとともに、関係機関と医療的ケア児等とその家族をつなぐ役割を担う。北海道では今年度、医療的ケア児等の支援に携わる者(予定を含む)を対象に、医療的ケア児等コーディネーターを養成するための研修を開催した。

#### 2. 開催概要

##### (ア) 研修日程

令和 5 年 11 月 1 日(水)～10 日(金)講義 オンライン(ライブ)(配信動画 450 時間)

講義終了後からオンデマンド配信(令和 5 年 11 月 21 日(火)まで)

令和 5 年 11 月 1 日(水)～21 日(火) 講義オンデマンド配信(配信動画 450 時間)

令和 5 年 11 月 24 日(金) 演習(事例検討)集合(かでる2・7)

令和 5 年 11 月 25 日(土) 演習(事例検討) 集合(かでる2・7)

(イ) 講義内容及び講師一覧

開催形式	科目	内容	講師/報告者 (敬称略)	所属
<b>LIVE 配信</b> * 講義終了 後随時オンデ マンド配信	医療 (60)	①障がいのある子供の成長と発達の特徴 ②疾患の特徴 ③生理 ④日常生活における支援 ⑤緊急時の対応 (学童期～成人期)	田中 藤樹	独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター 小児科医長/小児慢性特定疾病・在宅・移行期医療 支援センター長
	福祉 (60)	①遊び・保育	遠山 裕湖	一般社団法人医療的ケア児等コーディネーター支援 協会/宮城県医療的ケア児等相談支援センター「ち るふあ」センター長
	医療 (60)	①障がいのある子供の成長と発達の特徴 ②疾患の特徴 ③生理 ④日常生活における支援 ⑤緊急時の対応 (新生児期～乳幼児期)	長屋 建	国立大学法人 旭川医科大学病院 新生児科 周産母子センター センター長
	本人・家族の思い の理解 (60)	①本人・家族の思い ②意思決定支援	菅野 芳美	重症心身障害児(者)施設 北海道療育園 旭川市小児慢性特定疾病相談室
	ライフステージに おける支援 (60)	①医療的ケアの必要性が高い子どもへの支援 ②NICU からの在宅移行支援	氣田 貴美	社会医療法人母恋 天使病院 NICU 病棟 主任
	支援体制整備 (30)	①支援チーム作りと支援体制整備/支援チームを 育てる ②支援体制整備事例 ③医療、福祉、教育の連携 ④地域の資源開拓・創出の方法	梅坪 光	八雲町子ども発達支援センター 支援係 主査
	本人・家族の思い の理解 (60)	③ニーズアセスメント ④ニーズ把握事例	笹山 美香	特定非営利活動法人 十勝障がい者支援センター 十勝障がい者総合相談支援センター 相談支援課 長
	医療 (60)	⑤日常生活における支援 ⑥訪問看護の仕組み	松山 なつむ	特定非営利活動法人 かしわのもり 訪問看護ステーションかしわのもり 統括 所長
<b>オンデマンド 配信</b>	総論 (60)	①医療的ケア児の地域生活を支えるために ②医療的ケア児等コーディネーターに求められる 資質と役割	土島 智幸	医療法人稲生会理事長 北海道医療的ケア児等支援センター センター長
	福祉 (60)	②支援の基本的枠組み ③福祉の制度	高波千代子	医療法人稲生会 相談室あんど 北海道医療的ケア児等支援センター スタッフ
	福祉 (60)	④家族支援 ⑤虐待		
	ライフステージに おける支援 (60)	③各ライフステージにおける相談支援に必要な視 点 ④児童期における支援 ⑤学童期における支援	目黒 祐美子	医療法人稲生会 相談室あんど 北海道医療的ケア児等支援センター スタッフ
	支援体制整備 (30)	①支援チーム作りと支援体制整備/支援チームを 育てる ②支援体制整備事例 ③医療、福祉、教育の連携 ④地域の資源開拓・創出の方法		
	演習の事前講義 (120)	①概念の整理 ②方法論について	高波千代子	医療法人稲生会 相談室あんど 北海道医療的ケア児等支援センター スタッフ
	医療 (60)	医療的ケア児の歯科診療	高井 理人	医療法人 稲生会 生涯クリニックさっぽろ
<b>演習</b> (集合研修)	事例検討	医療的ケア児等の事例をもとに、グループごとに事例を掘り下げ、ディスカッションをし、各グループのディスカッション内容を発表し、共有する。		
	事例検討	医療的ケア児等の事例をもとに、グループごとに事例を掘り下げ、ディスカッションをし、各グループのディスカッション内容を発表し、共有する		

### 3. 受講者の状況

#### (ア) 申込数及び受講者数

- ① 申込数:115 名
- ② 受講者数:72 名(うち修了者数:68 名)

#### (イ) 修了者の属する圏域

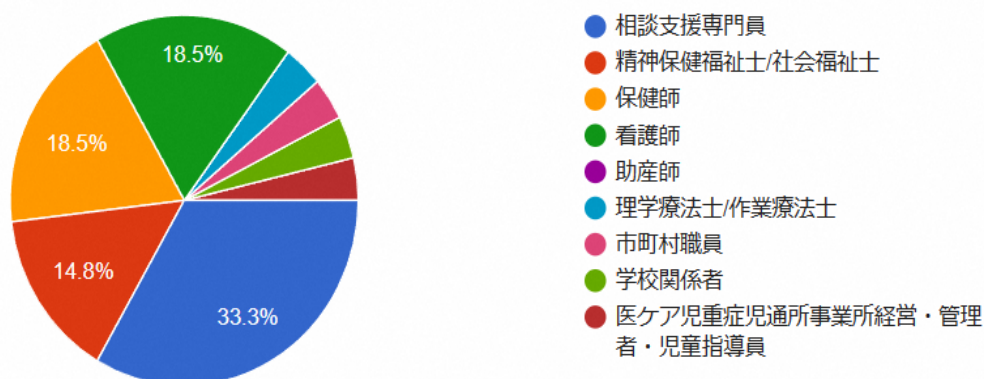
(※石狩支庁は北海道医療的ケア児等支援センタースタッフの受講者数を含む)

圏域	支庁	人数
オホーツク圏	網走支庁	2
釧路根室圏	釧路支庁	7
釧路根室圏	根室支庁	1
十勝圏	十勝支庁	6
道央圏	空知支庁	6
道央圏	後志支庁	2
道央圏	石狩支庁	16
道央圏	胆振支庁	12
道央圏	日高支庁	2
道南圏	渡島支庁	4
道北圏	宗谷支庁	2
道北圏	上川支庁	7
道北圏	留萌支庁	1
	合計	68

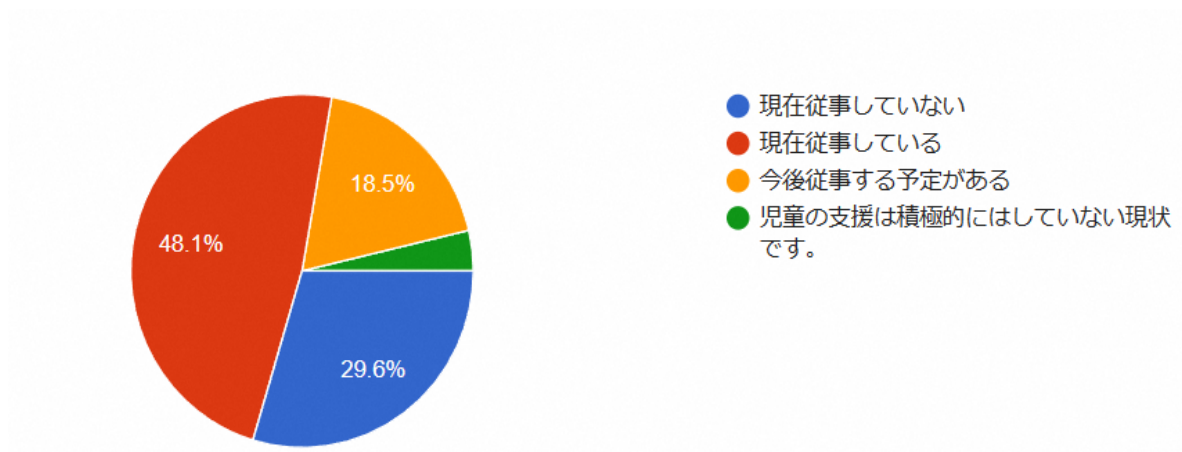
以下、研修修了後に修了者を対象としたアンケートの回答。回答者は修了者 68 名中 27 名(回収率 39.7%)。

#### (ウ) 修了者の属性

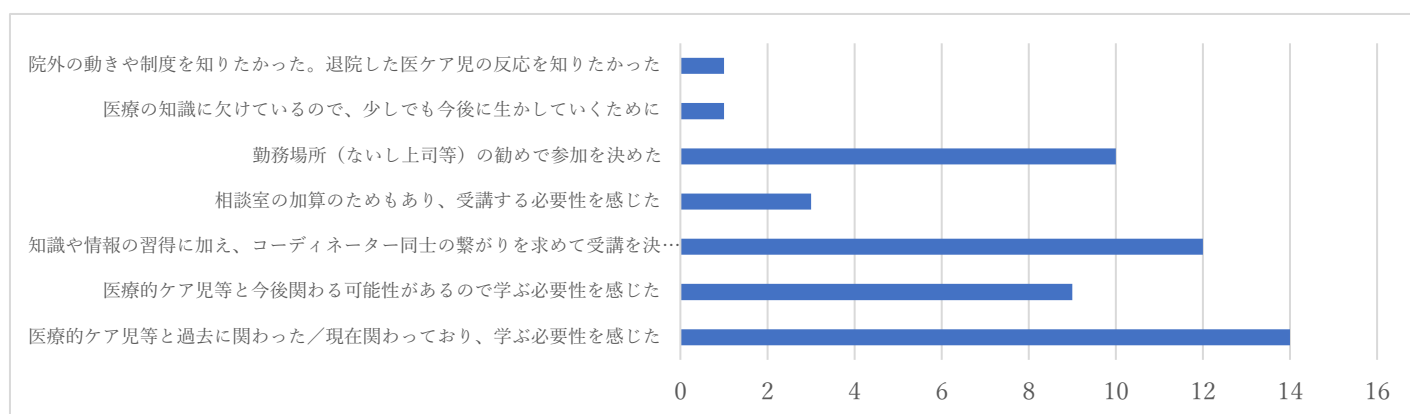
主たる業務を担う職種(アンケート回答者 27 名)



(エ) 修了者の医療的ケア児等支援に係る業務への従事の有無  
(アンケート回答者 27 名)



(オ) 修了者が研修に参加を決めたきっかけ  
(アンケート回答者 27 名、複数回答可)

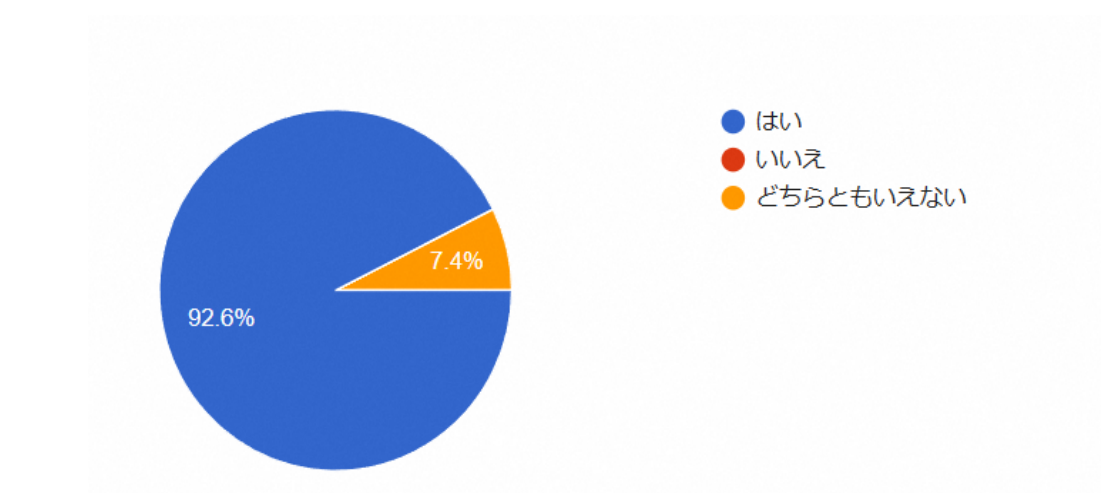


4. 研修に対する修了者の感想

(ア) 全体的な感想

Q:「研修終了後に研修で得た知識を実務で活用できると思うか」

A:アンケート回答者 27 名のうち、「はい」92.6% (25 名)、「どちらともいえない」7.4% (2 名)、「いいえ」と回答した者はなかった。



その他、研修全体に対する感想として、多様な職種/地域/所属機関の講師が講師を担ったことから医療福祉の知識はもとより自治体行政担当者等、多様な関係者の存在に対する気づきや、各地の地域性に基づく特徴について学んだことが伺える。また、コーディネーターとして実務に携わる講師陣により日常の実践事例に基づく講義を展開していただいたことから、多職種多機関連携の重要性等について具体性を伴う形で学ぶことができたという感想が多く寄せられた。要望としては、動画のオンデマンド視聴期間についてのご意見があり、今後の企画運営の参考にしていきたい。

自由記載の内容については下記抜粋参照。

**【医療について】**

- ・訪問看護や歯科については現状必要としている利用児者もあり、伝えていきたいと感じた。
- ・医療関係の方からが多かったからか、説明がきちんと整理された状態でしてくれるので、聞いていてとてもスムーズに感じた。

**【実践に基づく講義について】**

- ・実際にコーディネーターとして関わっている方々の言葉で講義を聞くことができ、大変勉強になった。
- ・既に関わりのある方々からのお話や経験談などを聞きながらディスカッション出来た事で考えの幅が広がったように感じました。
- ・日頃、これだけの多分野に係る盛りだくさんな内容を学ぶ機会はなかなかないため、とても勉強になりました。講師の皆様、企画していただいた事務局の皆様へ感謝です。
- ・医療的ケア児にかかわるすべての方に、ZOOM 研修を受講して欲しいと思いました。
- ・医ケア児の情報はとても少なく、大変有意義で有難い学びになりました。
- ・コーディネーターがどのように支援したのか、本人家族の反応を聞くことができ、自分がコーディネーターとして支援することを少しイメージすることができた。
- ・事前講義では、総論や制度の内容から、保育所通所や修学旅行に行くための事例について具体的な話を聞くことができてよかった。
- ・概要から深い内容までとても貴重なお話を聞いている感じがありました。
- ・事例を具体的に用いている講義が多く、想像を深めながらより実践的に考えることができた。
- ・全体的にわかりやすかった。全国の先進的な取り組みも聞けてよかった。外来患者のことでいつも考えていることに医ケアとは少しずれるが、本人が自分で受診できるようになる支援や自分の身体を理解する支援も必要と思っています。
- ・全講義、医療的ケア児等コーディネーターにとって必要なものだったので、とてもよかったです。特に事例を入れた講義は、自分の地域に照らし合わせることができました。
- ・今までかかわったことはあるが、医療的ケア児について詳しく学んできたことはなかったので、医療的ケア児の発達的な特徴や遊びのことなど、医療的ケア児を理解する上での基本から講義で教えていただけてよかった。
- ・医療的ケア児の特徴と、とりまく環境を理解できたことは今回の研修を受けてよかったことに1つでした。
- ・全道で医療的ケア児の支援に携わっている皆さんの具体的な支援の様子から、必要になる知識の部分と幅広く教えて頂き、大変充実した内容でした。
- ・あらゆる職種、あらゆる視点から、医療的ケア児を見た講義を聞き、勉強になった。
- ・医療的ケア児の1日や写真などは、イメージが付きやすくわかりやすかった。
- ・研修を通して、北海道内で活躍をされている医療的ケア児等コーディネーターの活動状況の関わりを通して、その子供やご家族の思いや願いを一部分であると思いますが知ることができたことが大きな一歩でした。
- ・医療的ケアコーディネーターとして利用者の方と一緒に考え、支援していく、協力することが大切だと改めて考えさせられました。医療的ケアが必要な方は、福祉だけではなく、教育、医療関係者と十分に情報共有、共通理解を図っていくことの重みをも感じました。

**【コーディネーターとしての働きについて】**

- ・コーディネーターとして必要な知識について、順を追ってあらためて学ぶことができた。
- ・基本的な部分から、現在行っていることまで知ることができた。
- ・知識が少ない自分にとっては基本からの学びができて大変良かったです。
- ・多方面からの講義の中で学びが多く、得るものがたくさんありました。
- ・関係者が同等の立場で「本人」を中心に考える姿勢を失わないようにかかわりを持っていきたいと思っています。

- ・コーディネートにつきましては、実践研修で必要な事柄のすべてを先生やたくさんの参加者皆様から学ぶことができました。ありがとうございます。
- ・どの講義においても、医療ケア児に関わる実体験を元にお話していただき、大変分かりやすい講義だったと感じています。

#### 【各地域での特色について】

- ・各地域ごとで資源が違い、その中で希望に合わせて繋げていく事の難しさも改めて感じました。

#### 【グループディスカッションについて】

- ・本研修を受講し、演習課題等について他の出席者（関係機関の方々）と一緒に検討をすることが出来、大変貴重な経験であったと感じています。
- ・研修に参加してみて同じ事例でも個々又はグループの考え方の違い（違う視点の発想や思考）を感じ、自分自身では思いつかなかった内容やケースの捉え方など知ることができてよかったです。
- ・真剣な事例検討の2日間で、あっという間に終了した感じがしましたので、充実感の強い構成だったと思いますし、大変刺激を受けました。
- ・演習で対象の児や家族に対してどのようにコーディネートし、支援していくかをグループのメンバーで考え、意見交換ができたことがとてもよかったです。
- ・2日間という短い中で、2事例を通して200万人都市、15万人の中都市、1万人の市町村で一人の状況の事例で様々な支援方法や資源での対応をする意見を聞くことが出来、とても充実した研修でした。人口や資源でも多角的な方法で対応したり、考えたり、無い資源を作るのではなく、ある資源で出来るか出来ないかを調査していくことの必要性も実感することが出来てました。
- ・グループワークについては、近隣市町村での小グループ、その後の意見交換を圏域市町村と交わすことが出来、共有する時間もあり1事例で同様な内容での検討でも他職種から様々な視点で多くの人が関われば、多くの検討をすることができ、優先順位を決定しながら一気に進めるのではなく、一步一步進めていかなければならないことを実感しました。
- その他、現状の他市町村での医療的ケア児等の部会や発足前、家族の声等について意見を聞くことが出来、今後の登別市や近隣市町村と一緒に行わなければならない方向性等を知ることが出来て本当に良かったです。

#### 【多職種連携について】

- ・従前にも増して積極的に関係機関、地域の方々と連携を図り、患者様、ご家族様等を支援していくことが重要であると考えております。
- ・また、すぐに医療的ケアのある方へ関わることはないと思いますが、最近関わるが増えてきた認知症も同じように社会的な理解や意思決定支援などが必要になってきています。すべての人に必要なことと思ひながら学びを進めることができました。これからも学び進めていけたらと思います。
- ・未知部分が多く不安でしたが、同じ事例でも色々な意見、職種によつての視点の違いなど学びが多かった。
- ・研修を受ける前までは「医療的…」という言葉に不安があったが、講義後の自分の思いは今まで出会ってきた家族と変わらず、困った時は周りの関係機関に頼っていこうと感じた。
- ・他職種の役割理解や社会資源についての理解が足りていないことに気が付くことができましたし、一人でやるものではなく協力して進めていくことの大切さを学ぶことができました。
- ・今後の支援者又は関係機関との連携を図っていく際には、研修を受けたことにより、対応への優先順位や準備、相談等の流れが見えてきたと感じているので通常業務の中で活かしていけたらと思っています。
- ・病棟においては関われない他職種の方々の話が見聞き出来て、とても良かった。自分の無知を痛恨し、福祉と教育、医療の連携であり、自分自身も視野が広がりました。ありがとうございました。

#### 【要望について】

- ・コーディネーター専用サイトとかを作って2023年度版としていつでも見れるようにしてほしいところです。オンライン講義へはリアタイでの参加をもっと増やしたかったなと個人的には思います。
- ・歯科は初めて聞きましたが、コーディネーター以外も聞いた方がいい内容なので、ぜひ当園にも話しにきてほしいと思いました。（今回のオンデマンドの内容を公開でもありがたいです）
- 移行期医療がもう少し詳しいとよかった。
- ・自分の本来業務をしながら、コーディネーターの業務をすることが、実際可能かどうか、また、今は組織として実働できないので、本来業務と同時進行でコーディネーター業務をするイメージがもう少し膨らむとよかった。
- ・個人的には自治体の支援の動きがもう少し講義に入ってもらえると嬉しかったです。

・国や都道府県が推進している事業であるという事や、地域で期待される役割、制度としての機能の説明が少し薄かったような印象があります。

#### (イ) オンライン開催に対する意見

本研修では、2 パターンの講義方法を実施した。一つは「オンライン・オンデマンド講義配信」であり、オンラインで参加される方は、講師の方に直接質問可能な形式とした。期間は2週間で参加者は20～30 名程度であった。オンラインでは、講師の方のリアルな言葉から、直接話を聞けてよかったという意見もある一方で、開催時間や開催形式の複雑さから参加が難しいという意見も寄せられていた。中にはWifi環境やPC 媒体の準備に労を要したといった意見も見られたが事前に想定していたよりも少ない印象を受けた。

講義を受講するうえで前提となる総論及び障害福祉については、「オンデマンド講義配信」をYouTube の限定公開を活用して実施した。繰り返し視聴ができ、自らの日常の隙間時間を利用して受講できるオンデマンド講義に対する感想は概ね良好だった。

コロナ禍といった状況が改善されたとしてもオンライン開催を希望する意見も寄せられており、今後の企画運営に参考としていきたい。

自由記載の内容については下記抜粋参照。

##### 【オンライン配信について】

- ・感染対策及び札幌以外の遠隔地から受講をする受講者にとっては、オンライン研修は良い方法であると考えます。
- ・オンラインは業務に合わせて対応できるので受けやすかったですが…パソコンが苦手なのですべて職場で助けてもらいました。(職場のセキュリティー等もあります)
- ・オンライン・オンデマンドは大変有難いです。
- ・北海道は距離もあるので、オンライン講義はぜひ今後も継続していただきたいです。
- ・オンライン講義はその日に受講しなければならないと思い、他の研修をキャンセルしてしまったので、しっかりと読んでおくべきだったと反省した。
- ・講義の時間が短いことで、講義に出てきたわからない単語(GCU ME 等)を一つ一つ調べる時間ができた。
- ・日程が合うときは講義にて受講しつつ、後日オンデマンドで受けることもできたため受講しやすかったと感じる。
- ・オンラインは夕方ということもあり、上司の許可が得られず参加できませんでした。
- ・仕事との調整もありオンラインの参加は難しかったですが、
- ・職場のネットの不具合でつながりにくさはありませんでしたが、受講方法については問題なしです。
- ・福祉の事業所勤務なので、zoom 研修をリアルタイムで受講するのが難しかった
- ・今回はオンラインの時間帯に参加は出来なく、オンデマンド配信で講義を受ける形となってしまいました。理由としては通常業務での対応があり、18:00 からの参加が出来ませんでした。頑張れば 18:30 頃であれば対応可能かと思われましたが、他の研修生や講師の都合や終了時間の影響もありますので、もし今後のご参考までに時間の検討をして頂ければと思います。
- ・オンラインは、時間帯が仕事帰りや私生活の忙しい時間帯で参加できず、質問できませんでしたが、集合研修などで聞けたので良かったです。単位数は多かったですが、1 日1時間で内容もゆっくりしていたので、無理なく受講出来ました。

##### 【オンデマンド配信について】

- ・仕事の勤務時間都合上 Zoom での参加はかなわなかった。一方でオンデマンド配信では自分の時間を利用して視聴することができるのでよかった。
- ・勤務の合間や自分の空き時間にも講義を聞き、または期間内には繰り返しみることができ、大変ありがたかったです。
- ・講義等の量は多く、大変だったが、長く出張となるよりは講義部分はオンラインで…の方が業務的にはやりやすかったと思う。
- ・オンライン講義が受けられない時に後日でも配信で受講できる点が良かったです。
- ・時期的なものかは不明ですが、11 月は夜間の会議および出張が多かったため、オンデマンド配信があった

ことは良かった。

- ・業務の都合もあるので、オンラインのみでなくオンデマンド配信もあってありがたかった。
- ・リアルタイムでの参加はなかなか難しかった分、オンデマンド配信があり助かりました。
- ・ちょうどコロナになってしまったので、体調が悪くて当日はズームでは参加ができず、後から受講できる制度はとても助かりました。
- ・勤務に影響なく受講することができライブ配信で見逃した分オンデマンド配信がありよかったです
- ・後日オンデマンドで視聴しましたが、あとからリアルタイムで聴きたかったと思う内容もありました。
- ・オンデマンドで配信があったので自分の都合のよい時間に参加できてよかった。
- ・オンデマンド配信は自分自身にとっては非常にためになりました。オンラインで聞き逃したことの確認や各講義の復習という捉え方で受講できたので、良かったです。
- ・仕事終了後、または土日に受講することができたので良かった。
- ・遠隔地(洞爺)からの申し込みであったこと、仕事に穴を開けることが難しい立場にあることを考えると、大変ありがたいものでした。
- ・オンラインとオンデマンド共に受講することができるようになってるのが、有難かったです。
- ・自分の時間で視聴し、勉強することができたので、とてもよかったと思います。
- ・オンデマンド配信の講義もリアルタイムに受けられない者としては非常に助かりました。1日業務をオフにし、1日かけて取り組むことが出来て良かったと思っています。
- ・オンライン講義は、時間がとれなかったのも、オンデマンド配信講義があつて、助かった。オンデマンド配信講義で十分だと思う。
- ・業務上やプライベート上、講義を定刻で受講することが難しく、今後もオンデマンド配信を含む形を望みます。

【講義数・動画視聴期間について】

- ・講義をみられる期間をもう1週間長くと良いなと思いました。
- ・1コマの時間が1時間程度であることに加えてコマ数もそれなりにあったので、平日の日々の業務後の視聴や休日にも時間を割くことが多く、少し大変でした。
- ・オンデマンド配信がもし、可能でしたら、会場開催演習の前日まで観られると有難いと思いました。演習内容の参考時に、もう一度支援について視聴したいと思うことがありました。

(ウ) ペーパーレス運営に対する意見

本研修会では、事前に講義資料を紙媒体で配布することなく、講義テキスト及び講義の受講案内等の資料全てについて Dropbox を用いてデータ配信を行った。データによる案内配信に対する感想は、受講者のインターネット環境に応じたものとなった。支障なくデータ保存ができ、必要に応じて個々に印刷ができる環境にある受講者にとっては、今回の運営方法で問題ないという意見が多数寄せられた。一方、主に行政機関に所属する受講者は、メール添付データをダウンロードし、印刷過程を踏むまでの手続的なステップが多いことから煩雑な準備となったことが伺える。また、庁内のシステム環境上 Dropbox を利用することができない受講者からは、受講期間中に別媒体での送信の希望が寄せられていた。別媒体として対応したのは、先方の希望に基づく「ギガファイル便」による配信(自治体4件)をし、そのほかの受講者については、アンケートの回答からも問題なく Dropbox を活用できたものと推測できる。

印刷は個々の状況に応じて個別に行っていただき、印刷枚数は多かったが、受講生からは、印刷は自己判断でよいとの意見も多く概ね良好な意見であった。

自由記載の内容については下記抜粋参照。

【ペーパーレスについて】

- ・データで閲覧できる方が持ち運びにも負担なくできたのでよかった。
- ・データ配信で困ることはありませんでした
- ・データで保管もできるので、すごくありがたい。
- ・ペーパーレスについては賛同致します。限られた資源(紙、木材等)を大切に環境に配慮をするとも



に、動植物と共生をしていくことが重要であると考えます。

- ・今の時代を考えるとよいと思います。
- ・資料のデータ配信は、受ける側が各々の方法で対応できるのでいいと思います。
- ・ペーパーレスで十分と感じております。
- ・資料の添付はあったため各自準備できるのでよかったと思う。
- ・いろんなデバイスで確認ができるので、とても使いやすいかと思います。今後もこういう配布が増えてほしいです。
- ・特に問題はありませんでした。
- ・問題なし
- ・データ配信で大丈夫です。印刷は個々人で大きさも含めて好きなようにするのがいいと思います。
- ・こちらで自由に印刷できるので、データで送れるものはそのままでよいと思います。
- ・各自データの保存等もできるし、医ケア児等に関わっている職員等に情報共有を行えるので、データによる配信は良かったです。
- ・特に講義資料データについては、不便を感じることはなかった。
- ・今の時代として、デジタル化で良かったと思います。
- ・ペーパーレスについては必要書類と感じた際は自身で印刷対応をしていたことで良いと思います。必要不必要は自己判断になると思われるので環境配慮で良いと思います。
- ・データ配信だと、自分の端末でも見ることができるので、持ち運びがしやすく良いなと思いました。
- ・時間割のページに講義資料も受講フォームもアクセスできるようにまとまっているのが、とても良かったです。
- ・特に問題はないと思います。データとして他の媒体にも保存できるので良かった。

#### 【印刷について】

- ・講義資料はプリントアウトしなかった。
- ・今後の参考にもなると思い、資料は印刷して、印刷したものを手元に置きながらオンラインでの講義を受けさせて頂きました。
- ・知識がないので何ですが、資料に書き込みができないのがペーパーレスの難点なのかと思います。自分は結局印刷して書き込みしました。
- ・必要な資料は自分で判断し、印刷できたので良かったと思う。
- ・必要に応じて印刷を各自がかける事で、毎回、社会情勢などにより講義資料も変えられるので、とても良いと感じました。
- ・研修受講を職場で発表していく為、全ての資料はコピーしていました。
- ・必要分を自分で判断して印刷したので、かえって良かったです。
- ・はじめ、講義資料は印刷せずにノートにメモを取っていたのですが、途中から講義資料を印刷して書き込みたくなってしまい、印刷してしまいました。その判断は個人に委ねられるので良いと思いました。

#### 【ダウンロードについて】

- ・一番最後の講義資料は、印刷はできたがpdfの保存はできない等使うパソコンによってなのか、受信環境によってなのか戸惑うこともあった。
- ・システム上初回のメールにてデータをダウンロードすることはできなかったが、すぐに対応していただけたため、円滑であった。
- ・職場のセキュリティの関係で、ギガファイル便を使用できないため、個別に対応して頂いた。

### (エ) 演習に対する感想

本研修では、2日間の演習を集合研修で実施し、3つの事例検討をグループディスカッションにて開催した。医療的ケア児に関わった事がない方もいる中で、実践的な事例検討は内容が難しい事も予想されたが、各地域、多職種で話し合う事でそれぞれの地域の特性等を踏まえ、自身の立場から意見交換も活発に行われていた。参加者の意見からも、概ね良好な意見が寄せられている。また、現地開催についても、週末を挟んで開催する事で、参加者の負担を軽減できる開催時期であったと考える。今後も講義部分はオンライン、演習部分は現地開催を継続していきたい。グループ編成については、良好な意見の一方で他のグループとの交流を希望される意見があり、内容についても自由度を高めたグループディスカッションであったため、来年度以降の企画運営に参考とさせていただきたい。

自由記載の内容については下記抜粋参照。

【演習内容について】

- ・一見長いと思えたグループワークではあったが、研修を終えてからは自分の地域に帰り活かしていくと考えると適当なものであった。演習の中で知識の確認も都度あったのでよかった。
- ・現地で二日間行った運営方法も時間配分も、ファシリテーターが各グループにいていただいたこともよかったと思います。
- ・研修内容についても、これまでいろいろな研修への参加や、基幹相談支援センター時代に企画等をしてきたが、今回の研修が一番ためになったし、学ぶ機会、交流の幅が広がる素晴らしいものだった。
- ・きっと企画は相当大変だったと思うが、参加する側としてはすごく丁寧に安心感のある環境で、意欲のある方ばかりの中で互いに高めあうことができた2日間だったと思うので、ここで得たものを今後に活かしていきたいと強く思っている。
- ・2日間という日数も程良かったと思いました。
- ・2日間の演習は、あっという間に過ぎていきました。これは、グループワーク、その他運営が適切且つ有益なものであった為と考えます。
- ・模造紙、付箋紙を活用した事例検討はやりやすく良かったです。オンラインだとこのような形式は難しいのだと思います(オンラインでできるのかどうかの知識がありません)。
- ・同じ事例をグループ間で検討・共有した部分のワークは、学びが深まり良かったと思います。
- ・タイムキーパーの上手な対応に緊張も解け、わからない情報も丁寧に教えていただき感謝しております。
- ・二日間の演習は、はじめて顔を合わせる中で、思いがけない出会いや再開もありました。
- また、コミュニケーションの方法や柔軟に考えることも含めて学ぶことができました。会場も行きやすい所であり、不便ありませんでした。
- ・1日1事例ずつライフステージの異なるケースを考えることができた点はよかった。
- ・グループワークは何度か繰り返していくことで、とても建設的で広がりのある内容を議論することができたかなと思いました。
- ・自分が反対意見を言うことが多かったのは、全体が同じ方を向き過ぎていることへの違和感とそのまま進んでしまうことへの怖さがあったからです。それも含めて有意義な議論になりとても楽しかったです。
- ・色々なケース検討の仕方があるのだなと思いました。
- ・GWの時間割も丁度良く、現地にて顔を合わせて実際のチームのように検討ができる機会となり、充実したと感じる。
- ・2日間GWはよかった。内容も素晴らしかったですしわかりやすかった。
- ・参加者の方からの地域の取り組みの補足説明もよかった
- ・遠方から来るのを考えると、祝日後の金土はよかったかもしれません。2日間でも足りないくらい充実の演習内容だったと思います。
- ・2日間で、2つの事例についてじっくり考えることができたので、とても良かったです。
- ・事例では意思決定支援での考え方をよく学ぶことができたと思います。
- ・2日間では非常にまとめることが難しい演習だと感じました。
- ・私自身も少ない経験の中、色々な取り組みを必要としているので、今後フォローアップ研修の参加等を出来ればしていきたいと思っています。
- ・普段接しない職種の方々を意見交換ができ、良かったです。2日間翌休日は良かったです。一日中話したり考えたりするので、予想以上の疲労感でした。
- ・今後もグループ毎の発表、紙面にまとめることは継続すると、コーディネーターの絆が深まりやすいと考えます。
- ・事例内容に関しては、大都市、地方都市、小規模自治体と3パターンあり、自分の地域の場合だとしたら、どのような支援体制が必要となるのかなど考えることができ参考になった。

【演習の現地開催について】

- ・現地開催については、遠隔地から出席された方々は、交通、宿泊先の確保等大変な部分もあるとは思われますが、実際に他の出席者とお会いをしてお話出来ることは、大変良いことであると考えます。
- ・現地開催は、対面で会って話が出来の方がやりやすく感じたのと、色々なお話も聞けるので良かったです
- ・現地で顔を合わせての話し合いはやはり大切と感じている。それでなければ生まれない意見交換も多く、演習についてはライブ感が非常に大事な要素だと改めて感じる事ができた。
- ・話し合いはお互いの顔がしっかり見えリアリティのある現地開催が良いと考えます。
- ・現地開催をすることで得られるものは多かったです(zoomでは雑談ができないので)。
- ・現地で顔を合わせながらグループワークできて、メンバーとの関係も築きながら進められてよかったと思う。
- ・ZOOM研修では得られない、話がどんどん広がっていく楽しさ、グループのメンバーの人柄にふれることが

できる等集合研修の『良さ』を改めて実感した。

- ・札幌駅周辺で開催され、とても参加しやすかった。
- ・現地開催をすることで、医療的ケア児と関わる近隣の市町村職員等と顔合わせし、意見を交換できたのが、自分自身にとっては非常に良い刺激となりました。
- ・現地開催は「顔を見ての議論」は盛り上がるので大賛成です。
- ・現地での開催は、時間とお金がかかるとはありますが、対面でしかお話ができない小さなことや、時間の共有は大きな意味があると感じました。継続して頂けたら幸いです。
- ・現地開催することで、グループ毎、またグループを超えての交流が活発化したと考えます。
- ・遠方から参加しているため、札幌駅近くの現地開催場所は、良かった。

#### 【グループ編成について】

- ・2日間、同じメンバーでじっくり話し合うことで、それぞれの専門性を活かして協力し、考えていくプロセスも学べた。1人では気付けないことも事例を通して話し合うことで具体的に様々な視点を学ぶことができてよかった。
- ・参加していた旭川のメンバーで「旭川でこういう研修ができれば、もっと人も集まるし、学びになるかも」「意欲のある人同士で行う研修会って頭は使うけど、こんなに楽しいんだ」という話が出ていた。
- ・資源の多さの違いもあって、様々な地域の方と同グループになれた事が良かったです。
- ・グループも地域近郊でしたのでこれからのつながりに有意義になると思います。
- ・同じ地域で話ができただことは共通のイメージを持った中（NICUがある病院とは？とか、事業所どんなところがある？とか）できたので、スムーズに進んだと思います。今まで面識なかった方と知り合えたことも良かったです。
- ・同じ管内の方とのグループだったため地域の実情も知るきっかけになり、今後支援に困ったときに相談先となる点もよかったと感じる。
- ・西胆振からの参加で、グループも地域分けされていたので、議論がしやすい印象を持ちました。質疑応答でも出ました「地域格差の仮題」は大きいのだと思います。テーブル内で「検討事例が室蘭界隈で起きたら理想とする支援はできるのか」という話になりました。
- ・グループメンバーが多職種で構成されていたので、それぞれの職種の視点から意見を聞く発言することができ、とても勉強になった。

#### 【要望について】

- ・グループワークの進め方について、最初だけでも「こんな風に進める」などの話が最初にあるとより嬉しかったなと思います。グループ毎の進めやすい方法でやってほしいという意図はわかったが、グループの人の雰囲気もつかめていない中だったので、最初はある程度指示をもらい、雰囲気がわかった中でグループに合わせた形での進行でもよかったのかな、とは思いました。
- でも、タイムキーパーの方も適宜助言してくれたし、グループの方も助けてくれたので、安心できました。ありがとうございます。
- ・他のグループさんとの交流はほとんどとれませんでした。地区で連携するためにはこのままでも良いのかもしれません。
- ・グループワークの内容も盛りだくさんで2日目の終盤はかなり疲労も多かったため、やや内容が軽いものでもよかったと思う。
- ・検討はできたのですが、二日間の演習の中での私たち受講者の学習における獲得目標がどのあたりにあるのかが分からず、何か意図があるのだとは思いますが、みんなケース検討して終わっているだけになってしまっているのではないかと印象を受けました。
- ・質疑の時間をもう少しとっても良かったかもしれません。
- ・1日目と2日目に情報共有するグループを変えてみたら、もっと他のグループの良いところを吸収できたりして、自分が所属するグループ内のディスカッション等の質を上げられたのかなと思います。
- ・どうしても都心部と遠隔地では資源の多さや距離の問題に加えて「質の担保の乏しさ」という課題があり、医療的ケア児の受入に消極的な「意識の問題」が上乗せされています。そういう課題と向き合う議論が内容に盛り込まれ、発表を聞くという機会があれば、より課題の共有や使命感の発揚につながったのではないかと感じました。
- ・研修での自由度が高く、進行役になった際はグループとしてどのように考えをまとめたら良いのだろうと悩むことが多かったのですが、その反面色々な考えを尊重していただけたのが良かったと思います。
- ・参加人数が多かったため、他のグループの方々とも交流をもう少し図りたいと思いました。1日目と2日目でグループの再編成が行われたら、良かったかなとも思いましたが、2日間同じ良さもあるので、どちらも良いと思いました。

・1 事例を関係機関や支援体制、コーディネーター等に対応、意思決定支援等の話までを内容としていましたが、去年まで実施していたサービス等利用計画の作成や関係機関調整の中でのサービス担当者会議又は退院支援会議、コーディネーターを中心とした関係機関調整会議の模擬体験等をロールプレイング方式で実践方式で行うことにより、より一層取り組み方に対して現実味を帯びるかと感じました。  
会議のロールプレイングを出したことについては私のグループであり担当者会議等の開催が少ないという声が出ていたことから実際行う為に必要なことの確認ができるのではないかと思います。  
・大雪にあたったので、時期は早めの方が良いと思う。  
もしくは、ズームでのグループワークも可能かと思う。その際は、ファシリテーターが記録や発表をするなどのサポートがあれば、可能かとも思った。

## 5. まとめ

本研修は、冬季間開催による天候に対する危惧といった弊害はあったものの、その他大きな支障もなく68名の受講者が修了できた。ファシリテーターを含めた70名近くの参加者が語り合う熱気が充満する活気ある現場となり、直接顔を合わせてコミュニケーションを取ることで縮められる距離感といったものを改めて実感することができた。各地で個々のコーディネーターが孤立することなく本研修で得られたネットワークを活用し、コーディネーター同士の関係構築を進めていくことの重要性を改めて事務局としても認識したことで、北海道医療的ケア児等支援センターの役割についても改めて確認することができた。今後もコーディネーター同士のつながりを強められるよう、フォローアップ研修を定期的で開催していくように尽力し、本研修の修了者とともに、既存のコーディネーターとの連携も深め、今後の北海道における医療的ケア児等の支援に従事していきたい。